



▲たくさん生えますように(シイタケの種駒の埋め込み作業)



▲ホダ木となるエノキを里山で伐採する様子

地域の話題

六連校区

「里山保全へつなげるふれあい」

里山保全活動などを通じ、地域のふれあいを大切にしている六連コミュニティ協議会からお便りが届きました。

地域発!

ヒラタケ・シイタケ栽培体験

六連校区では毎年2月、地域の交流行事として「キノコ栽培体験講座」を開催。幼児から高齢者まで、毎年100名ほどの校区民が参加しています。この講座は3年前に始まり、収穫も良好なことから校区行事として続けられています。栽培体験するキノコはヒラタケとシイタケです。ヒラタケについては、講座前日に校区内の里山で、校区役員がホダ木となるエノキをチェーンソーで伐採することから行っています。講座の当日は、長さ1mほどの原木を接種直前に30センチ前後に玉切り(枝払いし丸太とすること)し、切り口の合ったものを2個1組にします。切断面にヒラタケ菌を塗ったら元のよ

うに合わせて釘止めします。参加者の自宅で半日陰に置くなどを半年あまり続け、11月ごろに収穫します。シイタケについては、ドングリの木をホダ木として購入しています。講座では側面に数カ所の穴を電動ドリルで開け、種駒(木駒に菌糸を培養させたもの)を金づちで埋め込みます。この作業が子どもたちは楽しいようで、大いに盛り上がります。収穫時期は、ヒラタケとは異なり1年半から2年後です。

どちらも、天ぷらやバター焼き、みそ汁や鍋の具にと、各家庭でおいしく調理され、秋から冬にかけての食卓をにぎわしてくれます。

もうひとつの楽しみは？

講座では、校区役員が調理した豚

汁と石焼き芋が食べ放題で用意されます。普段とは違う慣れない作業にお腹を空かせた参加者が、温かい食事に舌鼓を打ちながら歓談するのも、この行事の人気のひとつです。



▲皆に人気の豚汁を作ります

大切な里山をいつまでも

里山を整備するといろいろな樹木が伐採されます。料理などの燃料、野外遊具や工芸品の材料、遊歩道や階段整備の資材などに利用できますが、キノコ栽培の材料としても高い利用価値があり、活用しない手はありません。

里山は災害を防いだり、空気をきれいにしたりもしてくれます。次の世代にも、豊かな姿で残していきたいと考えています。

